

① 助け愛隊活動の充実について

氏名（ ）

	困りごと	理由	改善方法	具体的な取り組み
高齢者	ビン・カンのゴミ出し当番。	継続的な活動は想定されていない。		
	季節家電の入れ替えの依頼がない。	ヘルパーで対応可能なため依頼が少ない。		
	高齢者は誰に助けを求めたらよいかわからない。	情報が届いていない。 ⇒利用者・支援希望者への周知不足 ⇒近隣住民の交流希薄化 ⇒他者との交流を避けている	サロン活動等の案内。 住民同士の声かけ(愚痴の言い合い)。	
	継続的な活動をして欲しい。	現在は単発な活動(電球交換、大型ごみの処分、季節家電入れ替え、簡易な庭掃除)を想定。		
支援者	全市域のため活動範囲が広い。	近隣住民の方が声をかけやすい。	地域単位で活動したほうが良い。	
	活動可能な範囲以外の活動はできない。		活動可能リストを事前に作成。	
	高齢者のニーズがわからない。	本人自身が理解していないことも		
	模様替えのため大きな家具を移動して欲しいと言われるが活動できない。	4つの活動(電球交換、大型ごみの処分、季節家電入れ替え、簡易な庭掃除)を想定している。		

② 団塊世代の社会参加促進について、全世代が参画する高齢者生活支援、地域づくり支援

困りごと	理由	改善方法	具体的な取り組み
新たなサロン立ち上げするとなると大変。	地域団体（福祉委員会、高齢クラブ等）は既存のサロン等の運営で多忙。	昔のまちの様子（生活の様子）を紹介する場があれば幅広い世代が関心持つかも。	今集まっている場所（スーパーのフードコート等）を「サロン」「クールスポット」にする。
高齢者はスマホができない。	誰に聞いたらよいかわからない。	単発のスマホ講座だけでなく継続的な取り組みが必要。 中学生もスマホ講座に関われる。教えるのは難しいかもしれないが交流につながる。	店舗等の協力を得て「スマホ 110番」を設置（フラッグ）しアドバイス出来たら良い。
挨拶しない人が多い。	生活様式が変化し顔を合わす機会の減少等で声をかけにくい。		
退職後に何をしたいのかわからない。 社会参加の意志の有無がわからない。	セカンドライフでボランティア活動・地域活動等の情報が企業等に伝わっていない（退職者に伝わらない）。	社会参加しているアクティブシニアの経験談をまとめる。家族の後押しを促す。	
男性の社会参加が進まない、 男性が参加するきっかけがない。	世間話（茶話会）を楽しみにくい。 退職後は趣味等で楽しんでいる。	目的意識（役割）がはっきりしている方が男性は参加しやすい。 ・現役時の職業を活かした活動創出 ・社会参加から得られるメリットを伝える	
新たな活動の創出が困難。 誰もが集まれる場（話ができる場）が近くにない。	スタッフは高齢者が多い。 多忙、個人の趣味優先等で他者との交流に無関心・希薄化。	マンション単位で検討する。 学校に高齢者が出向く。 既存の活動に障がい者・子ども等を参加することで自然と交流につながるのでは。	
高齢者の関心事（話題）がわからない。	高齢者のニーズが多様化。 高齢者のニーズ把握が不十分。	高齢クラブ会員は高齢者の話（悩み）を理解できるので連携出来ないか。 防災等全世代に関わる内容を取り入れる。	個人の特技を登録する登録サイトを立ち上げる。

③マンション住民の高齢化について

困りごと	理由	改善方法	具体的な取り組み
<p>買い物等で外出機会が減りフレイルが進んでいる。</p>	<p>宅配サービスの利用が進んだ。 オートロックを理解できず外出を控える。</p>		
<p>生活状況がわからずゴミ屋敷状態の場合もある。 ゴミ出し。</p>	<p>自治会未加入・管理組合等で住民同士の交流機会減少。 ゴミ捨て場が遠い。 階段が負担。</p>	<p>管理人との連携。 集会所の活用。</p>	
<p>住民同士の交流機会の減少。</p>	<p>自治会加入者の減少 ・ 役員の負担感（要因がわからない） ・ メリットを感じない</p>	<p>発起人が必要（意欲ある住民の発掘） ・ 1人では無理。仲間が必要 ・ コーディネート役が必要</p>	<p>お茶会の企画 ICT を活用して交流 ・ 簡単な操作で可能な方法を検討</p>

● マンションの強み：集会所が使える、管理人が常駐